

農薬使用は

適正かつ安全に！

ラベルをよく読む

飛散防止

正しく記帳

1 農薬のラベルをよく読み正しく使用しましょう

使用基準(適用農作物、使用量又は希釈倍数、使用方法、使用時期、使用回数等)を確認

農薬の登録を確認
(特定農薬を除く)

〈ラベル例〉

農林水産省登録第〇〇〇号

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10アール当たり使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	△△を含む農薬の総使用回数
□□□	灰色かび病	600倍	200~700 $\frac{\text{L}}{\text{10a}}$	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内
□〇□	炭疽病	500倍	150~300 $\frac{\text{L}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内

【効果・薬害等の注意】

.....

【安全使用上の注意】

.....

最終有効年月(西暦下2けた) 22. 11

有効年月以内であることを確認

同じ有効成分が、異なる商品に含まれる場合があるため、成分の総使用回数に注意

【注意点】も必ずチェック

○農薬使用者の安全を確保しましょう

- ・取り扱いを誤ると、中毒事故を引き起こすことがあります
- ・作業中に着用する防護服などの種類、作業後のうがいや洗顔、誤飲時の対応などの注意事項に従いましょう

○保管管理などの注意事項も確認しましょう

全国の農薬事故発生状況(令和元年度)

○人に対する事故 死亡 0件(0人)
中毒 11件(23人)

○主な原因

- ・マスク、メガネ、服装等装備不十分 3件(3人)
- ・農薬使用後の作業管理の不良 5件(17人)
- ・保管管理不良等による誤飲誤食 2件(2人)

2 農薬飛散(ドリフト)防止を徹底しましょう

- ・病虫害の発生状況を確認し、必要最小限の農薬散布に留めましょう
- ・近隣の栽培者や周辺住民に、散布日時や使用農薬などを事前に周知しましょう
- ・周辺農作物を確認し、農薬の種類や形状、散布方法や散布器具などを選びましょう
- ・無風または風の弱い時など、近隣に影響の少ない天候や時間帯を選びましょう
- ・緩衝地帯や遮蔽物(飛散防止ネットや遮蔽植物、被覆資材等)を上手に活用しましょう

3 使用状況を正確に記録しましょう

農薬を使用した年月日、場所、対象農作物、農薬の種類または名称、単位面積あたりの使用量または希釈倍数などを正確に記録しましょう

〈様式例〉

播種日:○年○月○日 収穫開始日:○年○月○日 定植日:○年○月○日 収穫終了日:○年○月○日		
作物名・作型:		ほ場の場所・面積: (a)
使用年月日(気象条件等)	農薬の種類または名称	単位面積あたりの使用量または希釈倍数

4 農薬の使用に伴う事故及び被害を防止しましょう

令和元年度に全国で発生した中毒事故は11件、農作物・蜜蜂などの被害は58件でした。農薬の使用にあたっては、特に以下のことに注意してください。

中毒事故の防止

- ・農薬やその希釈液を飲料品の空容器などに移し替えない
- ・農薬は安全な場所に鍵をかけて保管するなど保管管理を徹底する
- ・農薬を扱うときは、ラベルの記載を守り、防護メガネやマスクなどを着用する
- ・住宅地等の周辺では、飛散防止対策を十分に行う
- ・土壌くん蒸剤を使用したときは、適正な厚さの資材を用いて被覆を完全に行う

農作物・家畜などの被害防止

- ・周辺の養蜂家に対して事前に散布日時などを連絡し、農薬の形態など配慮する
- ・不要になった農薬は、廃棄物処理業者に処理を依頼するなど適正に処理する

詳しくは、埼玉県病虫害防除所(048-539-0661)または管轄の県農林振興センターへお問い合わせください。
作成:令和3年6月 埼玉県農産物安全課(048-830-4053)、一般社団法人埼玉県植物防疫協会